

市原市防災庁舎工事かわら版

発行所 大成・進和
特定建設工事
共同企業体
発行人 実松本
編集 中道 毅

産業廃棄物の適正かつ細分化された分別によるエコ活動

生産活動をする上では、必然的に廃棄物が発生します。建設業においても建設業産業廃棄物が生じ、全産業の廃棄物搬出量中おおよそ2割を建設業が占めていると言われています。そのような中でよく言われているものに3Rという言葉があります。Reduce(減らす)、Reuse(繰り返し使う)、Recycle(再資源化する)の頭文字をとった言葉で、廃棄物の削減に有効なものです。ここでは、当作業所における取り組みをご紹介します。

「減らす」「繰り返し使う」については、業者の新規入場時の教育や作業前の打合せ等で、製品の養生材や梱包材の必要最低限の範囲内での削減を依頼しています。また併せて、木製パレット等は各業者に引き取ってもらい、再利用を図っています。

次に「再資源化」についてです。作業所では、「がれき類」「廃プラスチック類」「紙くず」「木くず」「金属くず」等に分別し、埋め立て・焼却処理となってしまう混合廃棄物を極力削減するようにしています。これら分別された廃棄物は、中間処理を経て下記のフロー図のように再資源化されるようになっています。

躯体工事の集大成「コンクリート打設」

4月末日現在、躯体工事も大詰めに迎え、最後のフロアである4階の立上りを施工しています。ご存知の方もいると思いますが、当作業所の建物は鉄筋コンクリート造(RC造)と鉄骨造(S造)の複合構造となっております。そのうち鉄筋コンクリートの中で集大成とも言えるコンクリートについてご紹介します。

よって設計で強度が指定されるので、コンクリート工場で注文する際に強度を指定して注文します。コンクリートを受入れる際は、指定した固さ(スランプ値)、空気含有量、空気量、塩化物量、温度等が基準を満たしているか、規定回数受入検査を行い、品質を管理しています。また同時にサンプルを採取し、規定の日数経過の後に圧縮試験をして先述の指定強度を満たしているか確認も行います。受入検査が合格したら

現場ハイライト



↑コンクリート受入検査状況
スランプ値、空気量、塩化物量、温度の確認及びサンプル採取を行う。



↑コンクリート打設状況
ポンプ車のホースから送られたコンクリートを震動機で締め固めている。



大成・進和JV 所員紹介
建築担当工事係 佐藤 光洋

建築担当工事係の佐藤です。主に躯体工事と外装工事を担当しています。市民の皆様喜んでいただけるランドマーク的な庁舎を造ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

次はいよいよ打設になります。打設はいくつかの安全・品質を管理するポイントがあります。一つ目はコンクリート圧力と打ち重ね時間の調整についてです。打設時のコンクリートは流動的なので型枠に過度の圧力がかかると型枠が壊れる可能性があります。従って打設時は圧力が過度にかからない

ように打設高さを調整し、ある程度硬化した後にその上を打ち重ねていきます。この打ち重ねも規定の時間があるので、それも考慮しながら打設します。二つ目は、充填についてです。コンクリートは流動的とはいえ、流し込んだままだと、空隙ができて構造的に不具合が生じるので、打

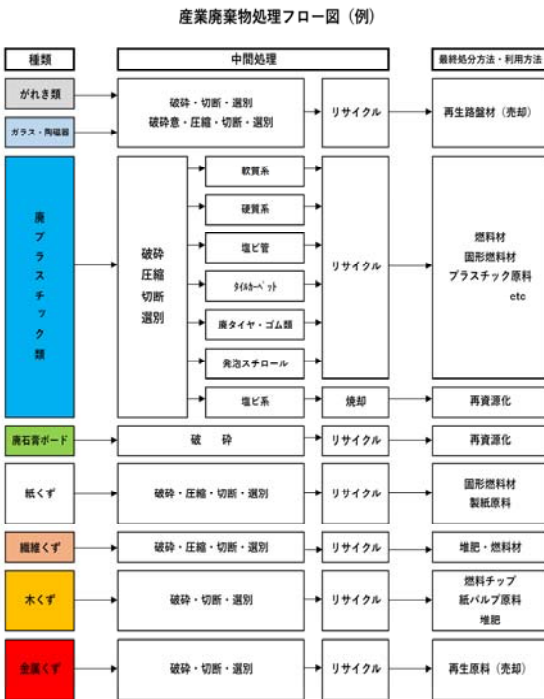
設時には、専用の振動機をコンクリート内に入れて密実にします。また型枠側から木槌等で叩いて表面の空隙が生じないようにします。型枠でコンクリートの様子が見えないため、現場所員の指導のもと念入りかつ確実な締め固め作業を行います。

三つ目は床の仕上げです。仕上げは、左官工事業者によって所定のレベルに均一かつ平坦になるよう金ゴテで仕上げていきます。硬化するまで仕上げるので、気温の低い冬期は夜中まで作業する場合があります。

廃棄物の内容によっては分別の判断が難しいものがあるのですが、廃棄物置場に分別表を掲示したり、随時周知会を開催し、

教育指導をしております。また併せて定期的に業者職長による環境パトロールを実施し、分別に不具合がある場合は、朝礼や

昼の打合せ時等に随時報告を受け、再度教育指導を実施して分別の徹底を図るよう管理しています。



↑産業廃棄物の処理フロー図
様々なものに再生、再利用される。

ゴーヤ成長記録 第1回

今年も日増しに暑い季節が近づいてきました。当作業所は昨年引き続きゴーヤによるグリーンカーテンを実施します。先日、業者の方と一緒に苗を植え込みました。



↑産業廃棄物分別についての周知会状況
指導することで混合廃棄物を削減するよう取り組んでいる。